

【国語科・中1・「少年の日の思い出」】①

育成を目指す資質・能力

<本時のめあて>

場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化、場面と場面を結びつけながら解釈したことを基に、語られた出来事について「客」と聞き手であるあなたはどの捉えているのかに対する自身の考えを深める。

ICT活用のポイント

- 前時の学習の振り返りを共有し、本時の学習課題を捉える
- 生徒の学びの蓄積と、それに対する教師の評価の蓄積

【つかむ】

前時の学びを振り返り、本時の学習課題を捉える

【追求する】

グループで協力しながら描写を根拠に学習課題について考える

【まとめる】

学習課題に対して分かったことや解決できなかった疑問点などを振り返る

事例の概要

- 前時の自分の振り返りに対する教師のコメントを確認し、グループ内や学級全体で互いの振り返りやそれに対する教師のコメントを共有することを通して本時の学習課題を捉える。
- 本文に線を引いたり気づいたことを書き込んだりするなど、描写を根拠にしなが、グループで協力して学習課題の解決を図る。

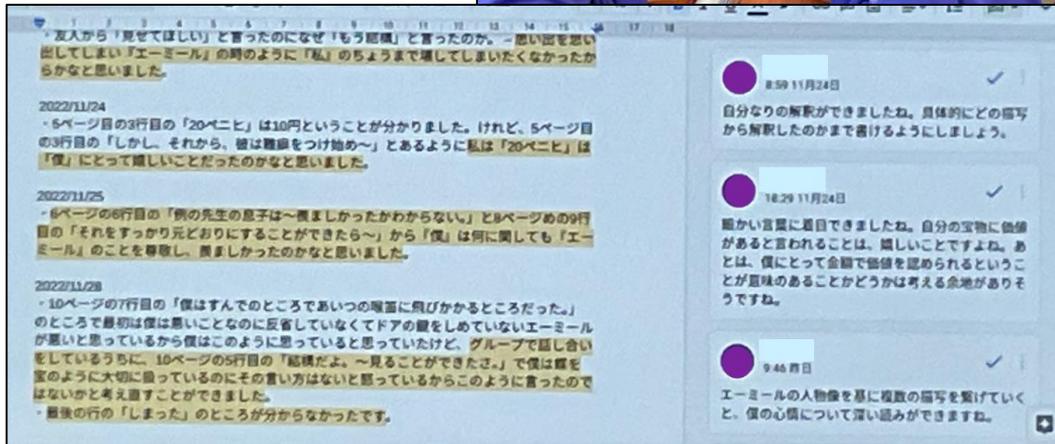
事例におけるICT活用の場面

- 生徒は文章作成ソフトに毎時間の振り返りを蓄積していく。
教師は、コメント機能を使って生徒の考えに対するフィードバックを行う。
生徒は、教師のコメントを手がかりに前時の学びを振り返り、グループ内で振り返りを共有して、本時で取り組む学習課題を捉える。
- 本時の振り返りを文章作成ソフトに入力し、学習支援ソフトで提出する。

【国語科・中1・「少年の日の思い出」②】

【事例におけるICT

活用の場面①】



教師は生徒が提出した振り返りに対して、文章作成ソフトのコメント機能を使って、授業前にコメントを返しておいた。生徒は、振り返りに分かったことだけでなく解決できなかった疑問点も書いており、教師は1人1人の学習状況を把握することに活用していた。疑問を書いた生徒にはコメントで考え方のヒントを示していた。

授業の導入において、生徒はICT端末画面を見せ合いながら互いの振り返りや教師からのコメントを読み比べ、互いの感じ方や考え方の違いを実感していた。

生徒から出された考えを学級全体で共有し、整理しながら本時の学習課題を設定した。生徒は前時と本時の学習のつながりを意識することができ、本時の学習を行う意義を実感している様子が見られた。また、教師のコメントを読んで、前時の課題を改めてグループで考え直そうとする様子も見られた。

【事例におけるICT活用の場面②】



まとめの場面において、生徒は文章作成ソフトで本時の振り返りを記入した。そこには単元を通しての自分の振り返りとそれに対する教師のコメントが蓄積されており、生徒は前時までの自分の理解と比較することで、自分の学びを自覚することができていた。また授業後も、グループで相談しながら学習課題に粘り強く取り組み、振り返りを記入している様子も見られた。

【活用したソフトや機能】・文章作成ソフト（コメント機能） ・学習支援ソフト